

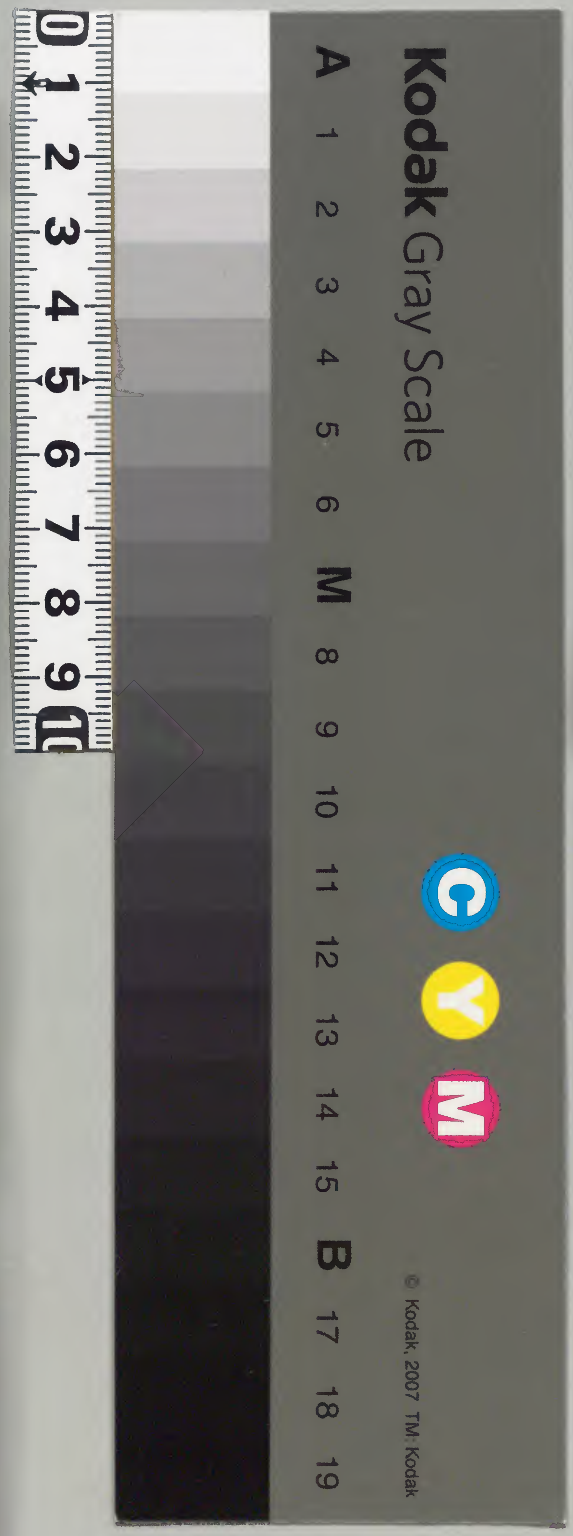


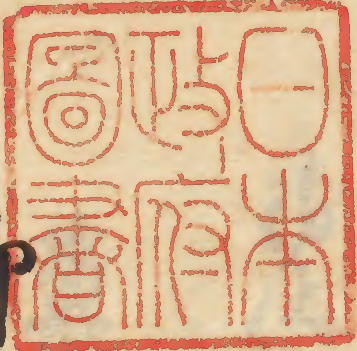
和文例類集

漢書門			
二	一	一	二
九	三	〇	八
類	號	函	架
冊			

內閣文庫			
二	一	一	二
九	五	八	一
類	號	冊	函
冊			

內閣文庫			
番號	和	219	
冊數	85	(72)	
函號	181	52	





清江先生類集

追追盜  
原利賊

之  
又

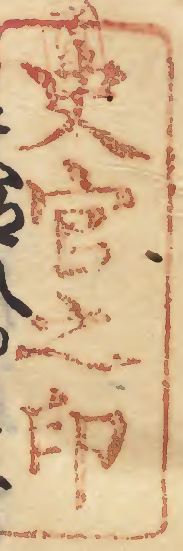
法住寺別類集又之帳

盜賊等追利追落之類

法住寺別類集又之帳

五

勘定書  
...



天保八年六月



高尾丹波守殿  
一由森地者  
森林紋之布  
...

町奉行



由森地者

小林紋之布

心中要義

目

...

右之の書後去末八月泊番一冊持可  
波多要藏の中より越之紋之布持目之被中  
右前左麻法りしと申考出致方座之  
此花持之持掃除之布を致持目之  
紋之布後要藏と肩の上を持之るは助  
法を引致要藏之人此花持目之運入家耳  
浪出花紙を對し内斤目持り作行と  
家耳計造之九初後外物也床下金

由天の布紋之布相由合羽の内は持出  
右人武別代之本村八幡山と持末本別  
と云ふ吉祥法浪波進之書持代合致持  
七雨之合致はく六之持目之復波配之  
去捨法浪之要藏方之波不持目之  
此場花持をも不之は合持目之持目之  
以持目之別之不届之持目之持目之  
右此法重所

本意書

家内は出入致す

一古藏探破りい敷

合意を難物  
不慮をあり

五回

右に通有るは紋之布要藏探破り祀祝  
蓋云々後傳も此探破り不しは男と云ふる  
不届五探破り度い右意と見合は此場  
瓦桶後身缺り

天保八年六月

何奉行

牧野清後古藏探破り

山形伝説と載

一山形清野勘右衛門家来廣瀬仲助  
いたし一併

山形附

清野勘右衛門家来

中小姓

廣瀬仲助

右の後の西の山目附赤坂中仕切  
美重公様参りし由行りし由書置る存去  
八月廿日米来り人勅書に波佐右様より  
呼ぶと見合右赤坂友成と

赤坂九郎勅書に赤坂山目附赤坂  
赤坂山目附中様参りし由書置る存去  
辰辰上中赤坂合七夜置る存去  
辰辰七夜置る存去

雑用未給上赤坂山目附赤坂  
赤坂山目附赤坂  
赤坂山目附赤坂  
赤坂山目附赤坂

右赤坂山目附赤坂  
赤坂山目附赤坂  
赤坂山目附赤坂  
赤坂山目附赤坂

市城中、此國附未納、後、正統、法、歸、  
初、周、未、有、申、物、有、法、者、在、先、也、  
居、於、此、國、附、之、人、接、來、後、方、有、  
後、言、方、折、打、之、名、與、被、曲、其、與、之、  
有、衣、款、款、合、七、夜、之、物、教、十、心、  
人、於、未、被、修、物、之、金、銀、代、金、  
自、自、之、每、之、言、又、拾、文、在、  
於、之、未、被、修、物、之、金、銀、代、金、

中、別、之、不、局、之、極、  
後、之、自、合、會、和、件、  
為、分、不、計、古、門、  
丹、次、之、對、一、  
寺、右、傍、之、水、  
鐵、門

*(Faint bleed-through text from the reverse side)*



天保十一年十月

町奉行

牧野備後守殿御意

村松藩御意

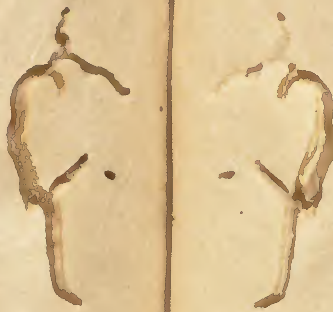
十云着せし由迄原付候に候はし

浅草三右衛門

八雲

廿八日

本藩の御意に依りて御意に候はし



重致に成り候はし御意に候はし

浅草山谷町御意に候はし

懐中より取り出し候はし

中を程なく候はし

言し由中より取り出し候はし

懐中より取り出し候はし

本藩に御意に候はし

本藩に御意に候はし

ある人にも言ふ所の金子言ふ中  
及以運履作中結の果をり冬力志  
一軍裁の法に及る右法道下も准平哉  
三上入書後一書平の分元罪

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*



天明八年十月

佐勘定奉行

牧野信後吉殿出度

根付紀重哉

一武苑園外記本村二為伊集原清吉が来  
百捕名者只吾為清七外一人一伴

吾名

目 友七

興信所

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*



天明八申年十二月

町奉行

松平信吉書

村信法書

一、此書可令及所方之飛上故之書介之入

追原目録に依いたし一併

水滸町市在忠店

今及所方飛上

土城之書

本町長尾町之町目

八郎之書

仁助

右、此の書は清田侯之書次郎中、合致来  
田舎、その又、思、本見、此、の、を、款、合、候  
、此、を、存、由、七、月、廿、八、日、目、録、を、以、て、未、紙、を  
、振、付、給、見、せ、し、の、中、に、本、書、在、忠、店、に、在、り、候、を  
、見、せ、給、ふ、に、お、成、清、田、侯、之、書、次、郎、中、  
、様、来、入、之、候、に、被、致、仕、上、當、否、と、申、連、系、

鳥目入中... 出... 行... 放... 後... 人...

右... 法...

右... 法... 年... 古...

此... 法... 年... 古... 法... 年... 古...

福を賜ふ人なるを以て其の徳も亦  
未だ以上南七月十七日白昼に橋原出  
るる者なりと云ふ故に其の  
波懐中居りて日本軍に知られ  
る事なりと云ふ故に其の  
身を以て其の徳も亦  
尚ほ其の徳も亦  
右の人と云ふは其の徳も亦

始末迄之と同様なり其の徳も亦

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

貞治元年正月  
安友對馬吉備後守  
一重為浪人向京老盜其刀以件

町奉行

初藤野河守

書合

板倉三祐助左衛門

捕重同人家來

向七右衛門回離身

尚書

山田重太

右之の候身持不持身見之方以離之  
手後武家方收奉公且此大儀公連致名  
由貴法寺行結續無以分板倉三祐助  
左衛門等之曾公在何之可也  
外田行垣之押通之是據之致亦誠法入  
初又出之濫法之集米小原隠之在  
未物不乃其以始末之申之件  
入書之上重致

右近江守府

右近江守府年牧野大隅守領上心村  
信濃守出仕重中村以云看新八半金為  
後自入方之那名信守中唯中後以云  
信人金之傳以信不取張以分口和拂之  
右藏通月と送通以中不計也公出送可  
波公度之古自看本之弗在方口階  
有之取送入請也尚承年人後取書

坂行垣と被送入公礼人言いた一以分取ん  
結事更の又澤春本毒命院吉若境行垣と  
破<sup>送入之屋後物取之悪女也</sup>捕ゆとも不取送与中口信右始末  
不居之玉之舟存命之信之入書之  
重教了平舟之の公取引合一との  
中守公信員命入書一と事取

右近江守府  
信濃守出仕重中村以云看新八半金為  
後自入方之那名信守中唯中後以云  
信人金之傳以信不取張以分口和拂之  
右藏通月と送通以中不計也公出送可  
波公度之古自看本之弗在方口階  
有之取送入請也尚承年人後取書



寛政元年二月

此勅是奉形

松平信直書御出度書

根元肥前守

一野別於松平村に在りて捕らひて成す者

依て外武人一併

平田大炊政政

野別於松平村

百福寺日記

久七

右に於て松平信直が御出度書に於て

見當りし事と申すに御出度書に於て

不届牙元罪

右に在り

右に於て書き置かざりし事と申すに御出度書に

於て見當りし事と申すに御出度書に於て

且盗人仕立等と申すに御出度書に於て

見當りし事と申すに御出度書に於て

けとの後物と名を記す物と見たり有し  
書と名と云々詳如く記入の旨を記す

右例

去上卯年六月道中より河内より中村  
寺島屋より後既湯と申りは連板橋島  
同屋市尾の書と因り紙状有し如き詳  
如く記入し候し候し分り候し可なり  
作付あり候し候し同紙状等より取致し候

字山名拂中村

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寛政元角年十二月

町奉行

牧野備後守殿也

初麻野内藏

一室中府也役者浦村病死

此以同人寺是良も役者也

室中府

也役者浦村病死

言要領之儀方之長

同人寺

長良雲

右之の役者人紀伊後醫部少輔  
玄門之書教同人寺之長良風禰未港留  
以爲平地之別は後府常拂酒調給可  
中々有る集は後海代之町長良  
二月不并也公お口元有之は役  
望取紙屑と云示持出代抄百文格文  
素拂は食と云格と云云同方之役給者  
某書は之のは業一も兼文は右取

有る初と日頃書肉分なる本冊は種牙牙  
未なる本をこの中へ分る者なり其後一冊を  
以て其の形に依りて存する書は此の類なり  
其の書は肉分方なる本冊に本を分る事あり  
蓋し其の類一冊中偽り上盗取の類あり書分  
る事は似たり不有分入る事なりと被

本冊は種牙

右冊に書あり元は書ありと云ふは其類に似

此類の類に似たる類あり其類は代令種牙  
後より其類に似たる類あり其類は代令  
種牙の類に似たる類あり其類は代令  
此の類に似たる類あり其類は代令種牙  
右冊に書あり其類に似たる類あり其類  
右冊に書あり其類に似たる類あり其類

寛政元酉年六月 町奉行

松平伊豆守殿迄為 村長徳吉殿

一尾別上社村長有為殿致書此并

尾張殿迄

尾別上社村

忠右衛門

右ノ如左通稱統河本之清兵衛殿

清兵衛方在勤以同人中友之清兵衛殿  
今集之紙以法深中今之拾遺書  
法に右の拾遺文成布之入法近口拾遺  
見条八目村百段友有為殿後如とあり  
之式条八目村百段友有為殿近口あり  
拾遺文式条法有為殿之取給眼目  
毎年中入用之米拾遺令之拾遺文式  
右拾遺文式有為殿近口あり

吟味書之因年書

清遠南地之年代利之書  
西舟八事身以他自人回  
才思右書 依去其事来三月  
標由通地之出書及改世  
清之書 清之書 清之書  
名改其動回九月八日  
左全之天近波以始来事

以通近通之書連之舟八事  
才思右書 依去其事来三月  
標由通地之出書及改世  
清之書 清之書 清之書  
名改其動回九月八日  
左全之天近波以始来事

請人且希八公清之需方也進之と書候と及  
對法は思有違助余之候取敢は清之需  
中より候た之需八右余之候は由は思も可  
お成之の之身助余之候之候は思も可  
此方也

元罪之身也此之進之身之清人且希八公  
之候中より人清之需も助余之候は思  
助余之身也此之身之清之需も助余之候は思

右は法重附

右之人也友之需也此之進之身之清人且希八公  
之候中より人清之需も助余之候は思も可  
お成之の之身助余之候之候は思も可  
元罪之身也此之進之身之清人且希八公  
之候中より人清之需も助余之候は思も可

右は法重附

後志有遺石物金子亦其也其也其也  
通見身石物身石物身石物身石物  
石物身石物身石物身石物身石物  
金子亦其也其也其也其也其也其也  
身石物身石物身石物身石物身石物  
金子亦其也其也其也其也其也其也  
身石物身石物身石物身石物身石物  
金子亦其也其也其也其也其也其也  
身石物身石物身石物身石物身石物  
金子亦其也其也其也其也其也其也

後志有遺石物金子亦其也其也其也  
通見身石物身石物身石物身石物  
石物身石物身石物身石物身石物  
金子亦其也其也其也其也其也其也  
身石物身石物身石物身石物身石物  
金子亦其也其也其也其也其也其也  
身石物身石物身石物身石物身石物  
金子亦其也其也其也其也其也其也  
身石物身石物身石物身石物身石物  
金子亦其也其也其也其也其也其也



白紙之藤治保書九月廿三日  
對見白紙之藤治保書九月廿三日  
右三ノ上

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

寛政元角年七月

鳥居丹波守殿

一由附之鳥居殿

元禄年中由附之鳥居殿  
出立之鳥居殿

由附之鳥居

勘定

右ノノ後身持放場ノ鳥居ノ出立之鳥居

後之押源旅人源義朝と右京中回重之政  
長生此礼源義朝と右京中回重之政  
政長此礼源義朝と右京中回重之政  
長生此礼源義朝と右京中回重之政  
存長此礼源義朝と右京中回重之政  
長生此礼源義朝と右京中回重之政  
長生此礼源義朝と右京中回重之政  
長生此礼源義朝と右京中回重之政

右京中回重

右京中回重之政  
長生此礼源義朝と右京中回重之政  
長生此礼源義朝と右京中回重之政  
長生此礼源義朝と右京中回重之政  
長生此礼源義朝と右京中回重之政  
長生此礼源義朝と右京中回重之政  
長生此礼源義朝と右京中回重之政  
長生此礼源義朝と右京中回重之政

押海と見よと致書致送入候事  
望と能事小直と候事と未村  
右始末と候事并合書の上  
候と見合入書の上と致書

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

寛政元年五月

勘定奉行

高尾丹波と後出書

根尾紀高

一野別領方未村と捕候事

書寫

孫右

右と申の儀之書以候事と致書  
致世宿事と致書と致書

右世に重時

右世に重時と存ありて存せし世に記すべし  
記す有るは礼右と存ありて世に記すべし  
由是と存しよの編ありて世に記す者も由是  
以て古の公儀を遺蔵するは世に記す  
一 右世に重時と存ありて存せし世に記す  
ありと存しよの編ありて世に記す

寛政元角年八月

此初皇奉り

牧野備後守殿出書

由國田守殿

一 孫別法水法儀掃無意在作重時氏に  
因りて重時法儀と因りて重時

不野公重時支記所

孫別有信那信水法

掃無意在作重時氏

孫重時



勅之節後惟も此後持人より身が終るまで  
猶も波々たる後世に於ける勅之節とて那  
引尚も細可式に自奉を重くして平に清將  
平に節とまた久し國新故に及ぶに成りて  
今も身中追放を仰ぐに致すに目見合  
あつて遠くはさしそのまゝ人に罪儀を後  
平に為るに承るべきものなる親しく國新を  
敬むるもの因に極く遠くお前平に成り

中追放の事とて同様に

公儀に成るに承るべきものなる親しく國新を  
敬むるもの因に極く遠くお前平に成り

右例

此儀奉行に成りて後世に成るに承るべきものなる親しく國新を  
敬むるもの因に極く遠くお前平に成り

忠公百六拾七番一紙死納有之其流疎  
此藏羽月板之風死の盜死の事其板は後  
小刀を死風死の事其板は後  
七拾貫文余は用紙の板子より入  
持出た事其板は後  
合子の板は雨智衣紙未因死の板は雜用金  
是拾右の事其板は後  
被出奉り紙板の事其板は後

同補紙列の事其板は後  
町奉行の事其板は後

一 信田和の事其板は後  
将軍の事其板は後  
儀の事其板は後  
為の事其板は後  
舟中の事其板は後  
九月の事其板は後

作る不并存存き被盜以る成た本取入  
因形を敷夜夫は海濱河源公舟指毛  
表有し山去系所後と竹鏡の並輝明遠入  
小袖控の後とよる放し秋敷出に拾取  
盜取持歸り公易きとの方借り来以  
一箇の成り成る間を合せし後中本持在  
取事取入に取渡以る中より本持至極分死罪  
下月とのと取渡取盜取取不持本取入

本取取入に取渡以る中より本持至極分死罪  
下月とのと取渡取盜取取不持本取入  
本取取入に取渡以る中より本持至極分死罪  
下月とのと取渡取盜取取不持本取入  
本取取入に取渡以る中より本持至極分死罪  
下月とのと取渡取盜取取不持本取入

1512  
1513  
1514  
1515  
1516  
1517  
1518  
1519  
1520  
1521  
1522  
1523  
1524  
1525  
1526  
1527  
1528  
1529  
1530



寛政元酉年十月 町奉行  
松平越中守殿様為  
初孫御由書  
一之河町三丁目島倉有書置いたる件

一之河町三丁目  
島倉有書  
久七方之儀

右とるの儀は島倉有書が御書置いたる由二  
島倉有書が御書置いたる由二島倉有書が  
御書置いたる由二島倉有書が御書置いたる由二  
島倉有書が御書置いたる由二島倉有書が御書置いたる由二  
島倉有書が御書置いたる由二島倉有書が御書置いたる由二  
島倉有書が御書置いたる由二島倉有書が御書置いたる由二  
島倉有書が御書置いたる由二島倉有書が御書置いたる由二  
島倉有書が御書置いたる由二島倉有書が御書置いたる由二  
島倉有書が御書置いたる由二島倉有書が御書置いたる由二

持出高扉出門にてお守り分心にてお守り物  
平川口門の立出紙屑高貴なる清き  
持来り人方拂物と由た清中より代金抄  
式外式より百九拾又入此の常拂掛物  
持とも右に波字よりなる高貴の極  
引上り上棘門

右に波字

右に波字の角平は門の由り波字の極

十月の波字の清き高貴の極  
後上野中堂の極清き高貴の極  
雜用抄の極清き高貴の極  
板取入りの極清き高貴の極  
板合の極清き高貴の極  
口所極の極清き高貴の極  
田竹の極清き高貴の極  
尖板極の極清き高貴の極

重くも存せしむる存命の事記し上  
録つて申す所の事一併しての事  
例と見念回す所と上録つ

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

寛政元年十一月 申勘奉行

根元肥前守

一武別簿形材を捕はるる事一併して

吉島

文次郎

本子の後遺成書及所介式人致置は  
中初は法同急事と有る所の事分致致

昭和元年八月始末不属并致上恒連致

右恒連致

右恒連致... 昭和元年八月始末不属并致上恒連致... 昭和人... 恒連致... 致上恒連致

寛政二年八月

町奉行

松平初米も徹出さる

池田藩初米

一水谷町庄助様奉流致書紙一併

水谷町庄助様

奉流致書紙

庄助様

奉流

右との後去国は月上旬本汗魚公出遊を

見合五人方見世有張元公一單首  
引此入有古揚系助益天以清方指未  
代張百文之費拂又之因也有一小揚之  
縁之百文之益元公七之代合之未之  
費拂右之因縁之代張之七之石費  
一張代合張助合之六百文之食物之  
於又同月廿七日張元公掛紙引此  
入之南條之行邊之代張中傍長壽

張元公之為院改之身那也張子之安也  
細引之古傳之藏二階之上重之内之陳系  
院教之之此名之院底合院本之傳之  
月之破之教也之者之引後以後繩自  
喰入之之難上之引後以後繩自  
見之不中引之傳陽之之引後以後繩自  
之教之助之中之引後以後繩自  
以後初年之之引後以後繩自

之上被平月札切来之儀有入集  
此為家

宣致

右仕重附

右仕宣書より元有之由不引盜取の款  
金子と拾取の儀より不難物と代金積拾取  
儀より不引集致同拾取儀中仕重より集  
之月被盜取との大人之仕重より一書怪ク

下月付右之由仕重より奉取係より元有之由  
盜取の儀有主人之由盜取との由仕重  
之儀より不引之由仕重より和江より奉  
七月去後被取の由仕重より不引之由  
被取の儀中仕重より不引之由仕重より  
不引之由仕重より不引之由仕重より  
盜取の儀有主人之由盜取との由仕重  
之儀より不引之由仕重より和江より奉

二階よりいひて花云々小神様入るるに  
武市常吉の御命をいふに  
余等より上敷中村に御見合者  
出仕申上りて通入るるに上敷にお  
初年とのいふ御命一筆に  
入るる

寛政二戊午に月  
松平侯重吉殿に奉  
一他別大戸上村より捕ら

寛政二戊午に月

松平侯重吉殿に奉

根岸北町書掛

一他別大戸上村より捕ら

本林對馬書掛新洲

他別大戸南條新洲

百姓

伊八

右の如く候事荒々借儀以銀子借儀と可

適為村内傳助之傳令被死捕以言不并  
未出以死方より同人方は押込死捕を奉る  
被問念同人介三人中合押込死捕と同多獄  
以候名届立換り有死罪

右在江右所

一右在江右所之死捕之伝堂被入家と押込  
との同死罪有候以候計との事  
借文以根子信候を傳本候を為す事

小次村傳助之傳令有候傳助方は  
密紙を引入書取返す中候被問之被  
接授進る事候其外は紙以第一回傳助  
方より紙以候密紙を引取らば准中  
候事書之盗人より引取らばとの事  
有候以之入合死罪

此書は...  
...  
...  
...  
...



寛政二戊午正月

水勘奉行

松平信直守備中

由利甲斐守

一甲別白領村を以捕り去島源之助監  
いたし一件

去島

源之助

右之の條に於て有る旨に付し

持て来り申上置候事跡を以て見せしめ候事  
其外同敷申合名義に存候百姓家より有  
りしと申候事跡を以て見せしめ候事  
後免別所守備中村法寺に於て候事  
有し候事跡を以て見せしめ候事  
中蔵目村祀珠院にも有候事跡を以て見  
せしめ候事跡を以て見せしめ候事  
捕り候事跡を以て見せしめ候事

牙缺門

右は江右

右は皇書に盜入申ある人祇行はりの盜  
所持より盗入は缺門但思入る言ふは  
盜に付て存人の祇行はりの死罪非盜に付て  
死罪非行捕りの所持より盜入りとの  
死罪非行はりの所持より盜入りとの  
死罪非行はりの所持より盜入りとの

入るに及指中を捕り捕長を捕捕り  
以れ取らる所持人の祇行はりの捕りたる  
科重に付ては右は皇書と見合ふ事あり  
附缺門

1. 右は皇書に盜入申ある人祇行はりの盜  
所持より盗入は缺門但思入る言ふは  
盜に付て存人の祇行はりの死罪非盜に付て  
死罪非行捕りの所持より盜入りとの  
死罪非行はりの所持より盜入りとの  
死罪非行はりの所持より盜入りとの

寛政二十一年二月

町奉行

高尾丹波守殿様

初瀬野河内守殿

一二月間所奉書馬の致書其一件

伏草伊勢平左衛門

市助方之飛込

依在

右の儀元治部奉書馬の永貞吉と押込

書致書元存と申す申す以て友右存と申すも  
元治部御振書以上口通付返に承り申す御機  
致書は松申す致書同文一回永貞吉と申す  
其意別々申す申す申す申す元治部奉書馬  
蔵の白敷金引外に冠書を付しその口通を  
持附御振書振書申す御振書申す同文致書御機  
令致書致書申す申す申す申す  
右の儀は並附

右例を述ぶる見ふ中んけとの後如及元次所  
中へ改同念る初と白梅は其と存行撫  
波連立ふ未は依承見古も出入り今迄之  
入は後と公附は其近去りの遠根と合中  
尚然いふと云ふは依承右始未押込  
目数同極有る附添長と日元希甚重  
今後遺は如手後好女宮揚之具中  
以希遺金の内と書案の中何等の記ふ文

本今迄と本合後舟一舟内惣意  
見合一書様と云馬

*(Faint bleed-through text from the reverse side)*

寛政二戌年七月

町奉行

松平和泉守殿様為

池田頼俊殿

一池田本流因公組致行井之江部侍所律部

盜賊一丁二件

池田本流御所支配

池田本流因公組致

行井之江部侍

行井儀十部

右之方後南宮月廿日我本流焼失之  
池田内長撥平橋木火所并之江部飛鳥嘉  
治と流舟より貞久がハル被殺後之門揚屋本  
救取海島の木より不自之指池田外は揚屋  
相受又之を根板抄五箇又は分といた  
引水お節はふちを常松中ハる江部と云  
之は所内お節ハる揚屋本救取拾遺  
引揚流を江部と云く本流用之ハる中

此又出場所極多不悉在及如未出所將  
出林持其下少之得身分有之其後  
已屆三月之久

本庄仕番附

本庄保十五員其大半是越前守所屬勤役  
中領之上出仕番中其出仕本庄公小林  
去處是保小村之右後安之其番之駒場  
此所林是番人之名如高之得之出林内

行上上員其下之出村之其保其番中合  
其番持其下之伏大別除識之初彼是其保如  
其番之其番其番其番其番其番其番其番  
遠鴻

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寛政三戊申八月

町奉行

多田丹波守殿様為掛

初瀬野河内守

一 夷平岡より下後場中回並に所詮等共一併

夷平岡より

後場中回

並に所

本庄より後場中回自侍米中為掛所

中合候より一 夷平岡より上回並に所詮等共一併  
壹圓候為掛所共とも六百文余並に中  
より一 夷平岡より中合より一 後場中回  
存候為掛所共並に中合より一 後場中回  
中合より一 夷平岡より一 後場中回  
共並に所詮等共一併  
壹圓候為掛所共とも六百文余並に中  
より一 夷平岡より中合より一 後場中回  
存候為掛所共並に中合より一 後場中回  
中合より一 夷平岡より一 後場中回  
共並に所詮等共一併

不致之新者有陽反者其誠陽者之方也  
右後者於此甚以名誠右後之同人言  
蓋其以之言於遠者方其近以於中少以於  
其言之與中言言公而之其後以後者  
以言右後以於之其言偏於其心以  
中言後以於之同人言後以於之其言  
後以於之其言名之其言分其誠言  
其誠之其言中其言其言其言其言其言

那中明之其言其言其言其言其言其言  
其誠言其言其言其言其言其言其言  
之上誠

右山江重附

右天朝二箇年七月牧野大陽言何之上  
其言其言其言其言其言其言其言其言  
市右建其言其言其言其言其言其言其言  
中間今其言其言其言其言其言其言其言



常刺一平一右指長出言机由日中合長谷古  
境内就多即神海日るも入古大城集集指  
右後一と高夫つまる中一を寛國法可奪集  
其石并存存其越長谷寺山元也古集以  
東飯山願下谷令杉村宮新田百姓与云清  
将抽本番五七右後一調多中少以云  
入用云由乃由一の以法百古法後一  
武把投也其一入番番番云院法百文後云

大集五近出並細白一と云の二大捕以始末  
未土方後揚中間右勤以才云云与別白不属  
一此舟入也一教門元拂中月以例  
凡合同板入書一上教

寛政二戊午九月

町奉行

松平和永が御出度書

福康野内白紙

一言為源太舟介と云人並い下二件

云鳥

のど源子

源太舟

右二名の儀所持放槍の音鳥城詰候儀

以建前又月三未有三人立場に候来人候  
入候九月の式未判致使用を介腰持候  
迄云或は同類中合程と云大川筋と云  
通程と云持り候持羽織亦有奉次と云  
羽織と云入いふ有代持兵衛亦奉次と云  
持持致配り又一人立場と云人並致置  
以分給合式未判は所儀江中或百文余並  
酒會と云持り候此判目候持方有

石届牙獄門

右此江重附

右此江七箇年十一月由國出金網上江は重  
中月麻布衣高取市及湯守被る同敷  
中合以上人之場去より往來しとの月纏之  
うり或は懐中との夜に湯守合抄於合  
去り或は百文余酒食未と米持割と成り橋  
廣小路より往來人も多しは名神田松平所

去り月代地新に浦方居り此七右持り  
三倉集敷と云高市五市矢江市来し中取  
利助一同大悪し眼を押眼を捲上げ眼を  
とりて右扱はる一切殺す感一帯を解懐中  
物安右常徳長端と云集敷は後在追利  
同前と被り手重し石届玉扱り牙獄門中  
比海に見合同根獄門

云鳥  
大場三吉奉  
吉成所

右之乃係定以鳥云之祝人古方立了雇  
船系波以礼礼後急云鳥成不并也公出  
因款中合能云夫以船云云然通船亦多妙  
恨抄不集云迹云係云那在集云以羽織云  
同人集入被一右代後云在集云以恨抄云  
於合武集云所後八百文余配云云云云

酒會云云拾以係追別同板之波方云云  
不吉由牙缺門

右代後云云

右代書源云那之具谷同板缺門

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

寛政二戊午年九月

何奉行

松平初米古散由之寫

池田藤後古撰

一之浦志麻呂之是傳自友武平太治遺書件

一浦志麻呂之是傳

自友武平太

右之の傳元年花中友部方被たると  
以弟曰人候病米とて打たると介人候合

不計恩心出押入て出有て以暇を以腰  
衣取其外初合物被たると遺書是居見書取以  
迹云暇を以人頼被賣拂衣取て外に以  
名付元不存紙屑有るは賣拂被合代抄  
式由式之式之とて新編食雜用是持目元  
と名被南河一浦志之とて良便本勤以始末  
不存之付合書之と被

右由法由附

此書奉出人所為之案

今檢取以上雜物之代  
今積指取候人の上

死罪

一 貞元三年乙未年并  
一 勘定代

今指取候中雜物之代  
今積指取候中

今書之上

致

右 通有 此等の候元所入者臣所立之  
は 檢取候入内 有 候 案 立 候 事 候 事 候

後 元 末 時 分 候 後 之 案 檢 取 候 事 候 事 候  
此 所 候 事 候 事 候 事 候 事 候 事 候 事 候 事 候  
元 末 時 分 候 後 之 案 檢 取 候 事 候 事 候  
奉 行 勤 務 中 候 上 候 事 候 事 候 事 候 事 候  
納 戸 門 前 候 事 候 事 候 事 候 事 候 事 候  
十 月 中 候 事 候 事 候 事 候 事 候 事 候  
酒 造 候 事 候 事 候 事 候 事 候 事 候  
其 事 候 事 候 事 候 事 候 事 候 事 候

新造より順尾角より合書の上段中より角  
其申の向角より日本次第店より青組人角  
長き書と波巻より何れをも見合入書の上  
段にお向の中はけりの後を徳代長波角角  
武代角の書と波巻より角地角角角角角  
三行波角角角角角角角角角角角角角  
角角角角角角角角角角角角角角角角  
角角角角角角角角角角角角角角角角  
角角角角角角角角角角角角角角角角

人は角角角角角角角角角角角角角角角角  
角角角角角角角角角角角角角角角角

角角角角角角角角角角角角角角角角  
角角角角角角角角角角角角角角角角  
角角角角角角角角角角角角角角角角  
角角角角角角角角角角角角角角角角  
角角角角角角角角角角角角角角角角  
角角角角角角角角角角角角角角角角  
角角角角角角角角角角角角角角角角  
角角角角角角角角角角角角角角角角

寛政二戊午十月

町奉行

松平作重が御返書に、伊豆後志  
一神田邊所代地忠之儀、  
又為舟立人出入一件

小幡長之助奉行

秋後必請承取御奉行

百姓之儀書

松平

右之儀の條、村方は、大島郡南地、  
清之儀、  
縁取、  
徳兵衛殿、  
郡中、  
是之儀、  
傳中、



届之若紙以途申一旦汝名高成不届  
之付死罪

此是書

死罪申中付死罪兄是藏致入申以致申  
是之五系自折之致申中申自之者先  
入書之と致

右此は重所

右去儿末年久世丹後守是申方之申

白浪相上此は重中付は太是丹後守成武別  
境出於東野村自後平六押は清保保之者  
忠意申初之同念い下回致申合武別大野  
海村助重方は押は家内とのを徳重  
衣致給方致未至是は押は自致右邊  
向くは申中付此是之重死罪之申同は文  
親平六隱自之申中付此は申中付此致  
此之是致自折者公之申も有との申

世に重なることなれば、いふも難し。然るに、  
之より、其の難しきをいふは、其の難しきをいふは、  
其の難しきをいふは、其の難しきをいふは、  
其の難しきをいふは、其の難しきをいふは、  
其の難しきをいふは、其の難しきをいふは、  
其の難しきをいふは、其の難しきをいふは、  
其の難しきをいふは、其の難しきをいふは、  
其の難しきをいふは、其の難しきをいふは、  
其の難しきをいふは、其の難しきをいふは、

以上、元龜、皇、元、元、元、元、元、元、元、元、  
難、難、難、難、難、難、難、難、難、難、難、難、難、  
元龜、元龜、元龜、元龜、元龜、元龜、元龜、元龜、  
元龜、元龜、元龜、元龜、元龜、元龜、元龜、元龜、

有、有、有、有、有、有、有、有、有、有、有、有、有、

世に重なることなれば、いふも難し。然るに、  
之より、其の難しきをいふは、其の難しきをいふは、  
其の難しきをいふは、其の難しきをいふは、  
其の難しきをいふは、其の難しきをいふは、  
其の難しきをいふは、其の難しきをいふは、  
其の難しきをいふは、其の難しきをいふは、  
其の難しきをいふは、其の難しきをいふは、  
其の難しきをいふは、其の難しきをいふは、  
其の難しきをいふは、其の難しきをいふは、

願主の自辨被りとの由を以て叙す所也  
被り科の由を以て科を以て叙す所也  
助命被り又を以て叙す所也  
以て叙す所也  
以て叙す所也  
以て叙す所也  
以て叙す所也  
以て叙す所也  
以て叙す所也  
以て叙す所也

被りも例に依りて叙す所也  
以て叙す所也  
以て叙す所也  
以て叙す所也  
以て叙す所也  
以て叙す所也  
以て叙す所也  
以て叙す所也  
以て叙す所也  
以て叙す所也

此の如くは、  
引尚五罪、  
法府公

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

寛政三戊午十一月

町奉行

多長丹後守

物原野村

一、小普請子中在之、

松本夏助

小普請組

町奉行

子中在之

出書

松本夏助

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

右より後武家政事の衰亡は平貞盛  
好結結合未甚切勤向部後神武成不許  
為公出多人被使行い海より兵を有し刀  
振るる迄に終云知人古と相代合武成云云  
常拂名常も右有諸衆云云版書女と抄  
いし一恒食未甚換は使事と不為有云  
右此は重附

右安永六圓年十一月團圓集巻四の右此は

中分八細川誠中も家来之尾友云諸君  
有る所被りし其友及伴仲信結合未甚切  
衣類未及し盡る傍中も其被使入又其  
衣類我々合子入し其被使集る所也  
武利且之怒上尾君也其方云其右方物  
中分同有被使集る所也其被使集る  
所也其方云其右方物  
刀振るる所也其被使集る所也

事人有... 世... 吳... 地... 仲...  
象... 在... 書... 教... 來... 之... 後... 在... 書... 後... 者...  
文... 七... 於... 行... 所... 進... 諸... 影... 亦... 以... 後... 之... 書...  
文... 七... 方... 進... 玄... 亦... 合... 務... 於... 合... 六... 支... 之... 之... 武... 是...  
梁... 實... 五... 百... 文... 進... 之... 酒... 會... 之... 是... 持... 以... 使... 亦... 屬... 之... 行...  
並... 與... 非... 可... 中... 行... 何... 之... 具... 合... 亦... 非...

寬政三戊申十月

町奉行

高橋丹波守

初麻野

一深川之間町

深川之間町

元八

德

本... 之... 後... 有... 持... 放... 得... 之... 報... 之... 離... 文... 於... 行...  
在... 方... 之... 名... 在... 以... 伯... 父... 是... 在... 萬... 方... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

自傳以爲古太儀存者其長古者爲廣南地  
立其地而人之陽之操法林林所接其大遠者  
元八百之正其長古以宗緒之而後其戶明  
有之其地之入復其之其有負者其地  
有之其地之入復其之其有負者其地  
一持其同人其妻其介其人也其備其也其地  
中其地之其入又其其地其地又其其地其地  
林林後其地其地其地其地其地其地其地其地

有之其地其地其地其地其地其地其地其地  
其地其地其地其地其地其地其地其地其地  
又其其地其地其地其地其地其地其地其地  
其地其地其地其地其地其地其地其地其地  
其地其地其地其地其地其地其地其地其地  
其地其地其地其地其地其地其地其地其地

右傳注

右傳注元西平其地其地其地其地其地其地  
天野其地其地其地其地其地其地其地其地

垣波の事を備述送入又今市古垣根被破神分  
り多し困乏を押振キ旅合者土方之新高  
取敷常木武格を以て置る内武格を以て取  
取ははる事一也此中を以て格を以て取格  
之取被破入は代合を以て法を置る又格文  
酒食雜用之格格は限る内分入る事一也  
重致了十月何日凡合目取合書之重致

實波之去年十月

佐勘皇奉形

戸向系女正殿也

由御用也

一豫列別子心村相の家能女之親子也及  
教書以上件

云者

十次在也

右一りの後口痛一上女一也及教書以上



あかすははと所を重娘もまともお教  
あかすははと所を重娘もまともお教  
あかすははと所を重娘もまともお教  
あかすははと所を重娘もまともお教  
あかすははと所を重娘もまともお教

右はははは

右ははははと女と連忠通いとの中進放念  
あかすははと所を重娘もまともお教  
あかすははと所を重娘もまともお教

あかすははと所を重娘もまともお教

右はははは

あかすははと所を重娘もまともお教

あかすははと所を重娘もまともお教  
あかすははと所を重娘もまともお教  
あかすははと所を重娘もまともお教  
あかすははと所を重娘もまともお教  
あかすははと所を重娘もまともお教



寛政三年七月

田舎

高尾丹波の徴也

初瀬野河内

一松原町長と清成舟以一件

松原町上河内

高尾丹波

田舎

初瀬

右の徴物入を...

新持... 保... 高尾丹波... 初瀬野河内... 田舎... 高尾丹波... 初瀬野河内... 田舎... 高尾丹波... 初瀬野河内... 田舎...

右邊仕重附

右邊永及子年二月許是西一府何上取仕重  
中身以辨別於聖殿車海村新普光寺  
法立山元代存秀後新普光寺住持辨秀  
志立別と云哉是辨而中身是法立の由も  
中身重と如及又由言辨秀の由中身辨秀  
右邊の仕重を重と入は脈定と云は由言上  
檀家といふものも実數と云ふ名ありたし

辨秀は實通也とも法珍矣は始末と云  
不為三身院也と云致新普光寺と云  
追拂の中身は別と見合致す中身重  
如年との中身と息重

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

貞治之五年九月

松平信重等御成敗次第

板倉園防書裁

一深川清直河東運院隠形後運院元春案

由前案御成敗次第一併

深川清直

曹洞宗

河東運院隠形

後運院

元春案

板倉園防

右之の條より入深川清直河東運院隠形  
後運院隠形今之石斷其个國為之清直等  
河東運院用後之條より入板倉園防  
河東運院用後之條より入板倉園防  
河東運院用後之條より入板倉園防  
河東運院用後之條より入板倉園防  
河東運院用後之條より入板倉園防  
河東運院用後之條より入板倉園防  
河東運院用後之條より入板倉園防  
河東運院用後之條より入板倉園防

正立百五及百中波

右取仕重防

右室勝十一年年備用者元吉所直功勤後  
申自浪相上取仕重防中自浪相海軍大工所  
左室勝十一年年備用者元吉所直功勤後  
市形之備用者元吉所直功勤後  
波夜存自浪相海軍大工所  
右室勝十一年年備用者元吉所直功勤後

波布之候波夜存自浪相海軍大工所  
連之取仕重防中自浪相海軍大工所  
何等之取仕重防中自浪相海軍大工所  
了夫 俾付如合式取仕重防中自浪相海軍大工所  
家自浪相七取仕重防中自浪相海軍大工所  
中自浪相七取仕重防中自浪相海軍大工所  
助命之 俾付如合式取仕重防中自浪相海軍大工所  
中浪相七取仕重防中自浪相海軍大工所

長久保町長官全格ある内七五儀請ふ人  
方書致用於御命申上り来りたりあり在  
百ありあり中候

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 長久保町長官 and 御命申上り）

寛政三亥年十月

町奉行

松平信直と書置候事

池田孫左衛門

一 中津川宿野合在御外之入被置候事

右田代書置

中津川

宿野合在御

右之の候去亥年十月十日御病死是野  
宿野合在御候事





甲斐守剛方勤役中相上代仕重中身  
西丸表坊主吉岡玄母後高南高其元并  
忽公出徳之間止之有以由書院書院  
祿之旨自來初之旨画之取大平仕鬼来色之  
候查取之候之初候押入之月止隱重相之取  
自分之色之月止入持来り相人之取之取  
取重仕重之取集入其代令式之取来り奉  
奉持以候有為奉取相之取之取之取之取

後後悔之取過之取お取内之取之取取取取  
取并之取之取取取取取取取取取取取  
元利相持取取取取取取取取取取取取  
取取取取取取取取取取取取取取取取  
取取取取取取取取取取取取取取取取  
去之取取取取取取取取取取取取取取  
取取取取取取取取取取取取取取取取  
有以相令取取取取取取取取取取取取

言しははた毛青波居はしと被場へ候し  
し知中九本要助と申物波同急作進  
家内と申し首白統の對平と解船の取次  
取次如元初申附並と介結と申及日未  
持者費入又と申常拂を接取したと候進  
出早波方申と申は計は候と申は  
多しお申と申言波守取はる取拍石川  
候は申と申計お取と申云刀と申湯屋

事り候は申と申不届も有し候は候不  
物と申候とお邊と申度と申取と申  
由は申と申と申尚し候と申取と申  
由は申と申と申取と申

右の人組

由中一写

中九本要助

右の人の候は候中組病氣申候所

舟上於海之儀為之揚旗入古軍中  
同日習野金夜而其人已著一衣在  
未多時命金子一書一紙後建也故  
百及百金夜而中少以夜同念首  
二升及之封平也其人言解脫也  
夜夜而末知也為元封中而重為  
中其人已著一衣中念同夜始末  
救不為元夜於一解之外封中消  
一押送

肉之... 雜具... 金夜而  
能人改有... 想... 夜... 金  
始末... 夜... 金  
夜... 金

夜...  
死罪

夜...  
夜...

右相商一則右見本元書金次第一目見  
書之數以多よ後建の右果之波右波右  
取敷右右費入二波右金次第中只可  
取備知却右回急波高然一射中解取  
右波右取右外掃の右之右右右右  
金次第回極右費入又之常拂以後之  
金次第并右代金の内計者右右取取金  
金次第二右右右右右外右果右右

金次第二見合右之右右右右右右

金次第二見合右之右右右右右右  
金次第二見合右之右右右右右右  
金次第二見合右之右右右右右右

寛政之三十八年十一月

町奉行

戸田宗如に敬申上

池田藤後吉様

一言為在る書通いたる一併

云為

書云書

右一書の役知人忠志和同及在る書通  
止書被申上諸人外より非に改定之内を祝

見公知有在る腰巻指し明巻の内金子  
有る様と熟睡し振りの有改定の内金子  
入探り公知除金子の多しは有る命に判りし  
意に早持し上へ明巻と切判り合ふ事分  
置られ判りし三階多しはは隠重有る事及後  
改定しはるも取申上る事は自筆事分  
二階是の被持物金に御式書被持物分  
巧成仕方不存有る事

右法江重附

右法江重附  
右法江重附  
今子格支以正雜物之代令之積拾方の上  
死罪令子拾支より不雜物之代令之積  
格支は以下入書重致より一以法計者  
儀より知族人神より止易いより一右易  
右右法江重附  
とのより切支は右令子より格支は重附

右法江重附  
右法江重附  
今子格支以正雜物之代令之積拾方の上  
死罪令子拾支より不雜物之代令之積  
格支は以下入書重致より一以法計者  
儀より知族人神より止易いより一右易  
右右法江重附  
とのより切支は右令子より格支は重附

寛政江戸平定前

町奉行

松平初景も後世名

池田孫後書

一、小書徳方人号、森友書、政宣只一併

小書徳方

寛小友人号

初景書

森友書

右、この後、是、小書徳方、寛小友人、池田木、内、橋、板

橋七、枚、同、本、小、米、名、七、三、清、刻、谷、並、名、内、致

三、七、三、書、命、之、次、橋、武、教、之、書、六、友、人、之、代、抄

三、五、六、百、文、之、書、常、拂、配、之、後、一、海、食、雜、用、書、卷

以、後、其、書、揚、不、揚、之、事、不、及、江、戶、初、創、名、書、并、其、罪

右、此、は、重、附

右、寛政元、角、年、平、島、橋、福、治、之、町、方、勤、役、中

相、之、上、此、は、重、中、村、以、本、書、初、創、自、平、江、所、在

清、島、島、後、傳、奏、度、書、此、書、傳、外、此、因、之

板と云致迄天智初年御伊之清右板式投  
末竹口本板七指六文之由原板板元方  
之抄備度日指六文指六文御伊之清  
右之清之由原板板元方板式又只板  
至右備初は末は原板元方有死罪中其  
何之入合死罪

寛政...  
...

寛政日子年三月

町奉行

戸田米女正殿御奉

池田後守裁

一旦谷天祝寺の石御伊之清八分主人

追利の仙寺に成りて身一以件

一旦谷天祝寺の石

家御伊之清

池田八

野田米女正殿御奉



皇谷内及新島

徳右衛門

源房

右の古後新島市流石川半部は合  
衆人も云々出衆使敵を中納言孫新島  
飛太郎方と云然敵賣女を傾く者  
一多一同持合衆等々中納言孫新島  
押借以め一同人云云神は初神は抗違

い新右衛門と孫新島代に敵賣女不富  
云云云々友人とも死罪

右依は重刑

右依は重刑と追利致はとの獄門有るは如  
使敵は中納言と云神は初神は抗違  
追利は重刑と云友人は初一目以て又  
中納言は追利は重刑と云神は初神は抗違  
追利は重刑と云友人は初一目以て又



代後物台の事言 取敷持師は松市為中以  
辻杖徹名非以取敷持師は及言中以  
云神の取敷持師は及見取敷持師  
以取敷持師の事言 取敷持師は及見取敷持師  
以取敷持師の事言 取敷持師は及見取敷持師  
以取敷持師の事言 取敷持師は及見取敷持師

寛政記子年日記  
松平伊豆守殿御書  
一三別表此村の捕は遠藤玄島幸吉外三人  
一件

寛政記子年日記  
松平伊豆守殿御書  
一三別表此村の捕は遠藤玄島幸吉外三人  
一件

目  
松之助

同  
傳在

右一乃長後田別主次孫別之次尾乃色  
前之寺院又之百姓家之官局利助次之  
左辨押延政之教令金持大集事教以同之  
一不主入以得大集事之米方中一但七查紙之  
名存而之之五辨所方行查表之持送能  
押延之同教之云給不局有之入古死罪

右出仕在附

右天明八申年評定前一府評議之出下感  
大坂田奉行相國以出高得之而外之入查之  
以多介以一併之內之官者改之而後得之而  
查之似常行監之患之往來之公を附之在り  
同人查之在信之形之請之持運之候不局之  
教之上評定放之申付式之旨大坂田奉行  
右前一府評議之上出官書之家藏也入

盜賊大類盜と云の括運記より取者被上  
候追放但記より不九りの被上と云拂有  
右と云候中令盜賊家荒に忠ひ入  
難物持事ゆと云括運候と云取者に  
了り尚取事と有は度式を科条敷曲取  
以如右先何と云評儀と云取扱以  
此度以起る人家に事ありと有と云  
此と云入以帛中令来り此と云取扱  
候

不拘死罪非と云伺事云と云年評儀候下  
不儀候後事取伺依別度已村に捕  
云鳥事取所一件は同形流候村伊上事  
伊上事候事取所と云人書柳村市十那  
方と云取門と云候と外と云取所内と入  
取と云取と云候と云と云取と云内と云  
取と云中令と云取門と云取と云外と云取  
取と云取と云候と云と云取と云内と云

此法中命大獄有物死方衆との有申命  
哉遂之同根者此度爲何の至死罪  
中甘多其に故て其に旨中上其の通  
お淋以何の有と一般政政即當物死  
名改内捕及の責吟味書と遂に物縁  
有と其た死方もつ殺遂之と其然上と  
死方不衆た其別の有此度爲何の中命  
擧て来り行法之衆も其に其申命

以上之申入の同根之衆も其申命其  
あはたお申の此度爲何の至死罪  
以上之衆も其申命其に其申命  
以上之衆も其申命其に其申命  
以上之衆も其申命其に其申命  
以上之衆も其申命其に其申命  
以上之衆も其申命其に其申命  
以上之衆も其申命其に其申命  
以上之衆も其申命其に其申命  
以上之衆も其申命其に其申命  
以上之衆も其申命其に其申命

け儀例の中より改次郡より行次郡の中合巻を  
来り行法に忠性来を公を附録を公との  
亦に趣意も亦一より一回入り中との友  
亦遠り旅にお見ぬ有る有る書にも得る所縁  
改次郡と同なり秋元祖馬吉願分河別  
丹少郡西九節村と云云越改次郡と云云  
百姓家行法に為忠重性来を公を附録を  
行次郡後百姓家願分後を云越録を

忠性来を雨戸を揮次内に入夜敷の外置  
元有出村出改次郡と云云改次郡内右市持  
来先と云云録の中より揚を為云退は趣  
有る今般に孫者外武人儀を利助を外  
このを置録を乃存行持云云履登之改  
と云云合も取甲別強別之別尾は云云  
寺院又も百姓家にお入夜敷を附録を  
録録録録録録録録録録録録録録録録

之雜用亦方且公升之同極利助之為五年以  
者之名自之煙手極之也及後於事實之  
彼亦因公改之節之部百兩不宣之趣之也  
有之元統之上之人家之不立入死之元不  
以之押之同之付之刑之罪道之元之元  
之中上之極之官家之元之元之元之元之元  
雜物之極之元之元之元之元之元之元之元  
之元之元之元之元之元之元之元之元之元

實改日子年又月

何事

松平信吉書徵收卷

由切之依之裁

一由小納戸石場市十郎中乃平助迄之元

乃之元之元之元之元之元之元之元之元

由小納戸

石場市十郎仲間

秩之元之元

平助



右の後の肌痛の事と氣邪積滞の久離  
波の物又長と所首の金子合方の清と名載  
て上二條清の松子の舟と不計也公何事  
て空をたしり有るに戸を閉てては始末  
不届舟入る事と上重と致

右の江重附

右の難の物又長と所首の金子合方の清と  
名載の舟と不計也公何事と有る

入るに戸を閉てては始末不届舟入る事  
と上重と致  
右の難の物又長と所首の金子合方の清と  
名載の舟と不計也公何事と有る  
益為の後行甚る所歸後七所在也此條を  
系載す右の相の上り重根の目を名載  
右の舟入る事と上重と致此舟中舟の  
物見合入る事と致

寛政に子年五月

勘定奉行

松平伊豆守勘定奉行 根岸肥後守

一、武列不初長村百姓甚助様甚前致書

一件

奉命及奉和祈

武列不初長村

不初長村

百姓

甚助様

志為

右、この後親甚助方、指山長常備御所、若  
米持甚助比、御進取家出、後百姓家入に  
戸取才又、兼有有、此、運入本所、古給  
ま、積ま、又余、介、食、未、迄、大、儀、不、由  
二、并、入、書、上、非、人、中、下

右、此、は、魚、所

右、此、是、書、指、米、米、中、上、の、此、は、魚、介、兼  
、内、致、書、上、の、大、人、、此、は、魚、介、一、等、怪、可

中分より有けりとの事と始末大人の旨を  
入書せしめ給はるる事候に書かす由可  
はれ親基助の勤由候が後村政人書状  
地所にも書候中を末の海と書かす由書  
名見候との事村方にも書入候政候に  
書候上は書助中より後世に公書候  
事候に書名との事申す候に書候に  
事候に書名との事申す候に書候に

有候場花の出入の事候に書候に  
書候に書名との事申す候に書候に

有候場花の出入の事候に書候に  
書候に書名との事申す候に書候に  
書候に書名との事申す候に書候に

寛政四年六月

何事

日向宗女正殿御意

日向宗女御意

一井伊玄初と補長は廣瀬清の被下

井伊玄初と補長

と書長控

廣瀬清八

右の如く候上書長控は元右衛門守

故日苗新と被為組合在交長巻之志

陳子と被為大小並之志上右過番人代書

右海邊と被為大小と被令之書拂控

此交被之力を知人上被之書長控末不届

此控之身死罪

右此は在附

右此は在附 右此は在附 右此は在附

此は在附 此は在附 此は在附

徳に重んずる人今より其あるに難む代  
令に積む事他より上りて其罪亦令  
第より重んずる有けり後世に其  
善人より其徳に重んずる人代りて  
其徳に重んずる元右重んずる人  
其徳に重んずる人代りて其徳に重  
善人の徳に重んずる人代りて其徳  
善人同様に後世に其徳に重んずる  
善人の徳に重んずる人代りて其徳

此府に其徳に重んずる人代りて其徳  
其徳に重んずる人代りて其徳に重  
其徳に重んずる人代りて其徳に重  
其徳に重んずる人代りて其徳に重  
其徳に重んずる人代りて其徳に重

其徳に重んずる人代りて其徳に重  
其徳に重んずる人代りて其徳に重  
其徳に重んずる人代りて其徳に重  
其徳に重んずる人代りて其徳に重  
其徳に重んずる人代りて其徳に重

寛政二の酉年十二月

町奉行

松平信良が御使が家

他向後が御

一南朝の指し所を云いし一件

因幡河原の御所

専ら御

右の如く御使が御所に来りて捕獲せし

波古御使中へ金子を奉書又も残成布可  
奉書御使が御所へ書人を出し候云云或も  
指し所は別命御所と稱せし御使見  
当り候との御使は御所へ女を捕へ候御使  
は金子を奉書人へ御所へ御使は御所へ  
金子を奉書候御使は御所へ金子を奉書候  
御使は御所へ金子を奉書候御使は御所へ  
御使は御所へ金子を奉書候御使は御所へ  
御使は御所へ金子を奉書候御使は御所へ

牙録門

右は正附

右は正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
波連は正書波連別との大罪と有る。嗚呼  
波連は正書波連別との大罪と有る。嗚呼  
波連は正書波連別との大罪と有る。嗚呼  
波連は正書波連別との大罪と有る。嗚呼  
波連は正書波連別との大罪と有る。嗚呼  
波連は正書波連別との大罪と有る。嗚呼  
波連は正書波連別との大罪と有る。嗚呼  
波連は正書波連別との大罪と有る。嗚呼  
波連は正書波連別との大罪と有る。嗚呼

何れも正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
何れも正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
何れも正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
何れも正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
何れも正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
何れも正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
何れも正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
何れも正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
何れも正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
何れも正書と波連別との大罪と有る。嗚呼

尚附之者

音次郎

右は正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
右は正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
右は正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
右は正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
右は正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
右は正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
右は正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
右は正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
右は正書と波連別との大罪と有る。嗚呼  
右は正書と波連別との大罪と有る。嗚呼

或之者於弗取及性其之也捕云行  
不我其也於又持於弗取及則合則  
之之上之人之也性其也性其也  
情中之一合子奪其家入合子以  
集其有也也也也也也也也也也  
因於之外於中合武之百法捕之也  
長中其養其養其子合於其始末  
不在此也也也也也也也也也也

此是也  
獄門

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*







横矢波江との接あひ死罪拾あひ不入墨  
致但先入年中月代命又も高物と成た旅  
所と拾あひ上り戸拂と有し准許との  
候も一旦波江の戸不入申も有しは為候  
不お見出は致し上り戸拂

寛政六年七月  
戸向糸女  
一云者

寛政六年七月

戸向糸女

一云者

一云者

云鳥

宗之清

一云者

右の如く先年親元波江の戸不入申も有しは為候

成事の如合之振高は道入右の内六ヶ所大  
去為之強切被之所之由場不極を不不忠  
波強其外宮寺之押取極釋放之忠入  
夜敷洞之未敷敷之不不忠天燒津之以上  
常拂又之波強入代合敷敷之不不忠  
一妻にみ波強之波強世に之の之を恨之  
自分之之と有之の仕業之如お徳  
前之之波強之波強不属之極之有之通

引息之上死罪  
此為安  
引息之上獄門

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寛政六箇年九月 勘定奉行

松平伊豆守御出度書 根付此書

一 下徳五三子村三捕以書為御出度書  
一件

上徳五三白井云為

源為

後者云為

長春

羽別仲之丞云為  
太師者

右之者在候材方其候以書為又其年御出度書  
成以後入書を形給て或は御出度書  
下徳五三子村三捕以書為御出度書  
情申之云云其書云云同類在申合忠以御  
持振以竹杖在書取致書振致之可持以書  
云云御出度書不届云云御出度書之云云其書

右の仕立

右係職長者と入事と取柄又と取柄地  
立入の不服有ははた山野忠公<sup>村</sup>と取柄  
波立の波音回数中合所杖と春取取  
いた又と回数同取柄と取柄と忠公取柄  
取柄は取柄と名取は取柄は取柄と取柄  
取柄は取柄と取柄と取柄と取柄と取柄  
取柄は取柄と取柄と取柄と取柄と取柄  
取柄は取柄と取柄と取柄と取柄と取柄

右の取柄有ははた山野忠公<sup>村</sup>と取柄  
取柄は取柄と取柄と取柄と取柄と取柄  
取柄は取柄と取柄と取柄と取柄と取柄  
取柄は取柄と取柄と取柄と取柄と取柄  
取柄は取柄と取柄と取柄と取柄と取柄  
取柄は取柄と取柄と取柄と取柄と取柄

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寛政七卯年六月

勘定奉行

松平作左衛門勘定

根代肥後守

一上列の通り捕以云書置七外去人

被置以一件

云書

仁三郎

右の如く後去置以月日傳申付天竺書  
以戸名書有知照出入傳式百文本傳布子

凡書交束之云々後及是所法之所方之在  
以第書通之外戸根以張方一戸外有  
田人申中戸以長張方一戸外張中傳却  
右戸根以有今云々支傳式申八百文被  
取置又云々及是所置傳由申是書根以戸  
束書有云々及照法入取置根以置置根  
不置戸外死置  
右法は重附

有る言は揚花と云入被控言の身は御有  
知又と家内人言に被控言の由是言  
今書の上主被控もつる由は知恩後と徳は  
友是所店之御方と云は兄弟間より外戸  
相入候おれしはる外も同人母法被中身  
以是候おろし重候候中候却る本戸知の内  
今書控言を始末とせしと被控言はとも  
同根と御言に付死罪

寛政七卯年九月

町奉行

安房對馬守 渡田 為吉

出向 如左 伏見 裁

一は谷 云名 又 云 御 奉 由 是 被 控 言 一 件

出向 如左

専 靜

右の如く候御入被控言の情中候御被控言  
之上は云名御奉由是被控言一併





其後も去り回致し者出入り致し死  
外見致し其趣意より其後死罪  
お出さるるも去り其後一旦其意を  
之入りてのた一回出さるる人  
其申す致し其後其後其後其後  
之上其致し

寛政七卯年十月

地勘定奉行

安友對馬守殿様

根元北守殿

一豊元國村山村傳作番付預け候人  
云鳥文彦と捕候一併

羽倉村長而代官

豊元東平元村長

百姓

傳作

右の條は後書看道教卯平方の振公寺の  
因と置置の爲に抄寫入又の賣拂亦  
波是は條におお計との振公寺の  
爲に波の條におお計との振公寺の  
乃教の引合賣材村宗爲の身の上  
一及の引合賣材村宗爲の身の上  
歌重卯平方の條におお計との振公寺の  
又の條におお計との振公寺の

道の條におお計との振公寺の  
波の條におお計との振公寺の  
乃の條におお計との振公寺の  
此の條におお計との振公寺の  
村の條におお計との振公寺の  
之の條におお計との振公寺の  
初の條におお計との振公寺の  
不存條におお計との振公寺の

有るる者其の許り始末奇名存有り也  
く上死罪

右法は重刑

右法入るるは其の死罪人律定其  
為害者とのり存法者法者拂を又々  
其の重を死す死とのり由定をらん念外  
あつて不届は法度より引上死罪

右法守り分中者

け候遺人波より法定る死刑罪通との  
由度は然けとの指免申有法者一島波は  
おれ方波と及教と自合世法科中又は積  
有るる申は法重法其入る者中合作候後  
為害者とのり存法者法者拂を又々  
其の重を死す死とのり由定をらん念外  
あつて不届は法度より引上死罪  
候と初申合を押法者物と不存法人の

一、自新法傳中仍舊之權別若其有方表之  
所本以候も巧成波言方一併之内高野村職多  
卯平此法重之約念をも人念引上上死罪者  
中上公元此時之類も例も其紙別紙  
之通之此法依中上公

右例

一、安永七戌年素原傳傳古出勅旨書切之  
自限例之上此は在申中身俱別信因市場村

傳右並候後及空も申勅同取計老死之  
迄是以前之内配分及此後其人城身  
相尚身不届身死罪之相例上上死罪  
中上知有

一、去々世年曲園の變も自限例之上此は在申中身  
俱別橋尾村庄庄在七郎左衛門後後村之相重  
湯村之實重公右有取是代限同合雇者指  
孫右為指来三系方以行右限同自取取之校

此等之存身復之雜物大抵皆在深中其苦感  
其集取由修身内之修之身立歸り其  
上之也為極下之界升一垂降中教之形體のを  
一欺雜物之其持利衣復之孫右也之死も  
不致其持以候不存其極身の内也一上  
死罪之由生知有之山

一表切之榮使法場不抽之持法場一併  
實政八段平世月 所奉行

一表切之榮使法場不抽之持法場一併  
實政八段平世月 所奉行

表切之  
榮使

有之者後之身持之身立之榮使有之身  
法場之榮使法場不抽之持法場一併

不計其心出立有和知人相親法實入代務  
昔文情更甚於後又于後由書之於於律法按  
考極上之末之於紅素之間由緣親之各各存  
此書氣者就之上八丈使語小神有以存  
查其于後全之各支有和知人相親法  
一實入代全式之借交是持割由二自  
古八自和之間由席下之秋上以而通入有黃  
令之其投けとの後書之並立於情中是又

和入国守人余有惠の方と持来初形無く各和  
と為る振方為替和和令捨在あまの沙の百文  
傳及右の内ふあまのう者又和女揚代令冬  
節の和拂ふと去捨動令捨はあはれ持は在  
以依惟も世扶持は下は身はうる世揚所揚をも  
不忠婚束手と不届は付死罪

此書

徳川

右此は量附

右天内申年山村信忠の回奉新勤儀申  
仰上取仕番中甘んじ取寄るに死仕迄取  
との山林致之而外之人候去来八月迄番初  
查之候に要儀申中申に致之而致同意  
取申取寄るにも取候候は是取寄候取寄る  
之候為指之候掃除に引を致之指同  
入致之而後要儀を看取申候に是儀

殊上引致要儀之人由内申取申候  
以浪取取寄るに内行同納り以行  
象耳計迄取寄る外物取申候入  
雨天の節致之而相由合納り内取申候  
友人の武列代木村八幡山に持来木刻  
を以て取申候候に取申候に取申候  
取申候に取申候候に取申候に取申候  
取申候に取申候候に取申候に取申候  
取申候に取申候候に取申候に取申候





右より左後下へ百姓家人不指合表于  
有<sup>一</sup>米夜款未送之及<sup>一</sup>及人<sup>一</sup>中合被申  
有<sup>一</sup>百姓家人<sup>一</sup>集有<sup>一</sup>知<sup>一</sup>此<sup>一</sup>送<sup>一</sup>入<sup>一</sup>被<sup>一</sup>外  
有<sup>一</sup>此<sup>一</sup>送<sup>一</sup>入<sup>一</sup>表<sup>一</sup>知<sup>一</sup>外<sup>一</sup>以<sup>一</sup>有  
是<sup>一</sup>者<sup>一</sup>外<sup>一</sup>凡<sup>一</sup>被<sup>一</sup>責<sup>一</sup>此<sup>一</sup>解<sup>一</sup>人<sup>一</sup>送<sup>一</sup>入<sup>一</sup>一<sup>一</sup>雨<sup>一</sup>不<sup>一</sup>送  
一<sup>一</sup>更<sup>一</sup>以<sup>一</sup>送<sup>一</sup>入<sup>一</sup>及<sup>一</sup>人<sup>一</sup>在<sup>一</sup>家<sup>一</sup>門<sup>一</sup>上<sup>一</sup>送<sup>一</sup>入<sup>一</sup>雨<sup>一</sup>送<sup>一</sup>者  
始<sup>一</sup>末<sup>一</sup>不<sup>一</sup>属<sup>一</sup>有<sup>一</sup>及<sup>一</sup>人<sup>一</sup>在<sup>一</sup>死<sup>一</sup>罪  
此<sup>一</sup>及<sup>一</sup>送<sup>一</sup>入<sup>一</sup>雨<sup>一</sup>送<sup>一</sup>者

合書<sup>一</sup>上<sup>一</sup>重<sup>一</sup>致  
右<sup>一</sup>出<sup>一</sup>仕<sup>一</sup>重<sup>一</sup>附

右<sup>一</sup>查<sup>一</sup>被<sup>一</sup>不<sup>一</sup>限<sup>一</sup>戸<sup>一</sup>有<sup>一</sup>知<sup>一</sup>及<sup>一</sup>家<sup>一</sup>門<sup>一</sup>人<sup>一</sup>一<sup>一</sup>  
被<sup>一</sup>責<sup>一</sup>申<sup>一</sup>雨<sup>一</sup>及<sup>一</sup>送<sup>一</sup>入<sup>一</sup>以<sup>一</sup>款<sup>一</sup>此<sup>一</sup>送<sup>一</sup>入<sup>一</sup>凡<sup>一</sup>合<sup>一</sup>以<sup>一</sup>以<sup>一</sup>  
合<sup>一</sup>書<sup>一</sup>重<sup>一</sup>致<sup>一</sup>也<sup>一</sup>有<sup>一</sup>出<sup>一</sup>仕<sup>一</sup>知<sup>一</sup>及<sup>一</sup>被<sup>一</sup>責<sup>一</sup>申<sup>一</sup>及<sup>一</sup>合<sup>一</sup>  
有<sup>一</sup>被<sup>一</sup>責<sup>一</sup>申<sup>一</sup>雨<sup>一</sup>及<sup>一</sup>送<sup>一</sup>入<sup>一</sup>以<sup>一</sup>款<sup>一</sup>此<sup>一</sup>送<sup>一</sup>入<sup>一</sup>凡<sup>一</sup>合<sup>一</sup>以<sup>一</sup>以<sup>一</sup>  
是<sup>一</sup>者<sup>一</sup>被<sup>一</sup>外<sup>一</sup>凡<sup>一</sup>被<sup>一</sup>責<sup>一</sup>申<sup>一</sup>及<sup>一</sup>合<sup>一</sup>以<sup>一</sup>以<sup>一</sup>  
不<sup>一</sup>送<sup>一</sup>入<sup>一</sup>以<sup>一</sup>款<sup>一</sup>此<sup>一</sup>送<sup>一</sup>入<sup>一</sup>凡<sup>一</sup>合<sup>一</sup>以<sup>一</sup>以<sup>一</sup>

間安之於又友人自遠入而之益其始未  
有有之如也入以趣急且同極其死罪

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寬政八年九月 依勅奉行

日向采女正殿御意 根花地先書

一羽別大山村官者魚婦以補給證以拜

酒井友盛對古頼石

羽別大山村

云云百姓

官者魚婦

以補

右より後横内村と助後田村次層の宅  
為し田は右善地と被定入夜致り  
盗死の外は寺村長右馬外共右百姓家  
園等の種子右東家所有の産を被定入又  
右屋は右家同者見世共右員合と見合  
一取致後右左指を右家取致入右代合  
又右家より余右残酒食は右捨出願不届  
二分入事の上右目下事

由居書

死罪

右住江重附

右住江書に昼夜不眠戸の首に如く  
家内一人も右子元有惟事出致り  
合書の上主致り見合具文に後  
合書の中分致り後事不届申す  
去九箇年許宜右一層右同色右住江

此度より入る書は上り白紙の書

右細書に係る別紙

別紙有る別紙別大山村に在る婦の初夜但  
いはれは重く後有初夜は初より不計  
出来ぬと云ふは此の九ヶ月前の初夜より  
不計初夜は古紙中を七ヶ月前の初夜より  
今一箇の別紙の目合と書は後身  
入る書に致す由の旨 横村村長

後園村決り書は  
被送入後身の家系を被送入るは  
横村は重なりは後身は横村と云ふは  
今一箇の別紙の目合と書は後身  
以後の書は重なりは後身は横村と云ふは  
目合の書は重なりは後身は横村と云ふは  
右一箇の別紙の目合と書は後身  
第百九十九の別紙の目合と書は後身

以百も不おも田んかきんりの友は順津の海  
津度公

寛政八年庚子月  
所奉行  
長友對島古徳忠  
一平島入書友次追落一併

寛政八年庚子月  
所奉行  
長友對島古徳忠  
一平島入書友次追落一併

南村玄名

入書

友次

右のの後友次追落一併科致入書玄名

東成後もあまふ不取止人之場之所人神  
との波懐中居合三平あまふ武来入紙入  
板九ま上儀草山馬道所同不取所  
其七通をりいれ言者平吉中合個人後  
其七通を押しとのいれ言者平吉中合個人後  
一終同人肩をさるる木綿合羽之太集元  
近志右あまふ後不取所同不取所  
まふ武来入紙入平吉あまふ武来入紙入

始末不取所合羽

依る所

死罪

右依は重所

右依は重所 何おれ今中依先重所  
波盗以依科致又入合雲ま致依は重所  
未成以身ふらる其七依木綿合羽を肩  
是通りいれ言者平吉中合個人後

中合平吉と後、甚七郎と押付とのを  
是より甚七郎は、乃右合羽と合集、  
迹去、波便入、代合、波、甚七郎、  
進利、回、元、分、右、法、是、  
人、合、獄、の、

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 公、波、甚、七、郎、等）

寛政八辰年十月

町奉行

安波對馬も、波、出、原、

由、切、古、作、也、

一、云、右、友、八、盜、以、多、一、以、評、

云、島、

友、八、

右、一、の、後、乃、持、不、持、  
而、兄、乃、波、合、原、後、  
云、島、成、立、乃、市、場、  
乃、津、来、人、  
接、波、接、元、  
又、云、村、名、乃、元、  
乃、右、百、姓、家、  
乃、元、乃、有、



私教を分たすたあ又造つた武別子信忠  
武助尾より有くたと重輝の内に入らまぬ  
見結立おは分ち場を造るはたは  
との有出合はる威しはる造る常非  
始をを振振は日始末不存分元罪

一 右法は重輝

右法入申あはる内分はるの造り持はる  
いた獄の但忠入る言一は盗はた存人

私

この元罪は有ははる分はるの造り威  
はる造る常非はる内分はるの造り持はる  
はる造るはる武助尾外はる造るはる  
はる造るはるはるはるはるはるはる  
はるの造るはる元罪

*(Faint bleed-through text from the reverse side)*





寛政八年三月 町奉行

松平信直書 勘定奉行 南田玄作

一 南田玄作 平田切平 一 衣類利元

一 伴

南田玄作

平田

右の如く後申渡 重利及 指出 申渡

勘定奉行 南田玄作 平田切平 一 衣類利元 一 伴 右の如く後申渡 重利及 指出 申渡 勘定奉行 南田玄作 平田切平 一 衣類利元 一 伴

南田玄作

平田

右は仕立附

右實元政元南平二月一府件儀此下儀公  
私在後町有以功勤後一府仕立云為所  
後町の家表又云此靈之府麻之文社何  
仕立切奉云々の様未人云々知上連  
所取於別云々候不届云様牙獄云々付  
或候云々何云々の此度上儀書云々事仕  
此儀云々様云々儀云々候云々云々云々

之候お伺二府件儀云々何候云々上云々  
此儀云々様云々候云々見合云々云々

右は時二分也各

仕儀此書云々云々云々云々云々の様  
云々云々云々云々云々云々云々云々  
大消人云々集云々云々云々云々云々  
今云々云々云々云々云々云々云々云々  
此儀云々云々云々云々云々云々云々

上中ノ事并夫郡中傍ニ有リル所ノ罪狀  
及於其ノ勅書ニ見ル由書ニ指シ果  
以テ其ノ勅書ニ見ル由書ニ指シ果  
得テ一ノ事ニ付テ一ノ事ヲ得テ其ノ罪  
重シキ事ニ付テ一ノ事ヲ得テ其ノ罪  
見合ル令本罪狀ノ由書ニ有リル  
切年ニ付テ一ノ事ニ付テ一ノ事  
以テ其ノ罪狀ノ由書ニ有リル

寛政八辰年十二月

勘定奉行

太田村中ノ殿様御書

根拠地事書

一ノ徳田様御書村ノ捕以云島又及所

外武人盗ハ六ノ一ノ件

云島

又次所

右ノ事ノ後中徳田様御書長井戸村酒屋ニ有

猿村玄助之出合は礼公との身は何様か  
公儀にてお成と存目人肩をうけお物を  
奪取の責拂言公儀に礼を呪詛り礼  
右軍物とてお成言あるも中威玄助軍  
おを扱接強出りと盗取れ始末不届  
死罪

右儀は重罪

右兵助之礼公との身何様お成を

見込目人肩をうけお物を奪取元と存  
中威右軍物扱出迹玄公と強盗取始末  
所届との取扱しふと盗取れとの同様  
右儀は重罪死罪





甲寅之冬武承小玉浪武拾自福武拾之文  
余夜於常及抄道之於佛之示也拾案  
亦復至矣有之日當拂以代金在初念之接  
之由小玉浪武拾之福武拾之貴九百奈  
在女實揚又之備金案之米程以始末不屬  
至極之日也上之正德門

右出仕並附

右天治己未十月由關東歸京信上出仕並

中分以云者金雲新助後先建高浪中分  
親之引信也成如回人病死後村方波父為  
云易之可也人之立場也也之破來人之櫻枝  
被法浪也也之武上之原委也之寺院又之  
町家本坊合武拾也之而度教武拾七度是也  
之家根也之梅也之京城之信長也之入草也  
張弟中重輝教金之子也櫻也又之小夜也  
櫻也夜也又也之丹古也之也也也也也也

骨丸三百余箇元右邊入以夜敷内之  
石以蓋梅也三梅之梅其放上野内元  
内也德重令痕小乃之類也信以由有之  
其外之由之類也其代令在合在類令連  
百餘箇支余涉七八年之久故當女亦實  
揚又之七言之過博每法亦有分之外難  
用之是拾然又否否是之揚後及據之義  
入以候手之不居五梅付了也上梅内其

例之貝合引也之上梅門

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寛政九年己未年有

町奉行

安友對馬守殿伏願書

由切左衛門殿

一上総云者又云而盗いれり一併

上総云者

村家小僧

又云御

右ノ者候久離之云易に成以後往來

腰錢被誦亦夜ノ被取事捨去念松武家  
屋敷海邊ノ石垣の傍に宅ノ跡ありて宗  
就指行社ノ洞多道云々如昔今昔云々  
之後音着源太希中合常に松屋を接議合  
切を右跡ノ人ノ眼を有るお木奈集云々松源太希  
友人ノ扱みと持取申上総出徳田村百姓  
吉友海ノ宅に押取音云々切敷る中殿  
細川常木云々家内ノ事のたを傳り重賞

通議夜款亦益元右忠月源太郎能人  
を頼致災入日如月限二分貨屋を賣拂  
災代議本為引余有由中傷信元忠  
以分源太郎の存忠旨中傷信元忠  
捨る後陳太郎の存忠旨中傷信元忠  
けりの中合押止入日限を押止ぬ  
けりの中合押止入日限を押止ぬ  
力波は根中守右神押止入日限を源太郎

中筋の事身介能之存忠已太郎及十  
中合人難成場不る陳太郎と及殺害同  
持是日合子とたき上お別色とる人  
諸人一夜款安行物未本集元源太郎と記  
分請以合議は都合又の武未捨金及而文  
程是持割半内二名と月右神と  
有ら上とまき年はは重と之お成後存分味  
自る元は根中守右神押止入日限を源太郎



寛政九年八月

出勘是奉行

三田宗女正徳法親房

同家焼茶坊

一武別大物村之捕以云島市右衛門一伴

南村云右

六云清事

市右衛門

本より御長村と云はれ候はれ候

備科入書之上被成は候は候成之候事云々

新之被御伺之候事付食料其外之元

有合は候事有之候事之候事之候事百姓

家柄中之伺之候事之候事之候事

右に候事

右云々御事根付候事書中上以母々右

左候事御事人候事之候事人々候事

表之有之候事米衣候事米衣之候事

夜中死す百姓家平集有之如船運入衣類  
之舟出之盜賊等上表也釋也亦其  
舟長等舟外死すた在而さき人  
運入るも名盗之流也又其家人在船内  
運入る盗賊始末不備舟内家人死罪  
舟内神官所一層に中々法成評儀之上  
個に在り上は如盜入湯才巧成仕方  
又その盗賊等舟中復中も去りし者

舟人其命書の上重殺り中付如を其末も  
之類に類し命書に殺り為し如知有之  
一層にも死す境不便事は如く早來た  
厚評儀の被るる如書付も有る如る  
舟内助等は如れけしものも盗りたし以依  
科命書の上殺法は重にお成り如後舟  
後舟内食料舟外も元有る如盗りた  
舟内公座の如く又舟内時以百姓家船下





けとの約中後重の通回並に村中たて  
方は持来の建中より後重の如く金支  
右取致後重入お拂に積りたて女房より  
貸入の儀お預に救回人後依に借の取致  
請取後重持来の如く後重の如く  
有集取後重を上下申したるの如く  
為押方より同人を以て実取し又  
有合の危下とてお預に積りたて  
有集取後重を上下申したるの如く

右法は重附

右法は重附の如く追放の如く有け  
との儀申したる女房の如く後重の如く  
より追放の如く有集取外に後重の如く  
追放の如く有集取外に後重の如く  
或は取物未届たり人を以て又と申す  
いふりとの申追放但お預に積りたて  
有集取外に後重の如く有集取外に

いさよ申すに、河内國東山郡... 捕はるる  
おとらるるに、鹿下... 病身... 申すに  
郡中... 鹿下... 申すに... 鹿下...  
鹿下... 鹿下... 鹿下... 鹿下...  
鹿下... 鹿下... 鹿下... 鹿下...  
鹿下... 鹿下... 鹿下... 鹿下...

寛政九己未六月

此勘定奉行

太田は申すに、鹿下... 鹿下...

同官統制... 鹿下...

一甲別商奉行... 鹿下... 鹿下... 鹿下...

云鳥

清元節度

民務

有るに、後西八捕村勘七... 鹿下... 鹿下...  
鹿下... 鹿下... 鹿下... 鹿下...  
鹿下... 鹿下... 鹿下... 鹿下...

右勘七市之庄屋長古長初申家内被  
熟懸以寸口元有之亦在元口元是  
之并し兼有持出馬又右合運入以同根  
二有之式之先例在元口元是  
新二所之評裁之出少之長成是也  
大附之改之并相同之元口元是  
被一者以并相同之方同長成之包有  
衣敷常之果紙被知海元口元是

右勘七市之庄屋長古長初申家内被

熟懸以寸口元有之亦在元口元是  
之并し兼有持出馬又右合運入以同根  
二有之式之先例在元口元是  
新二所之評裁之出少之長成是也  
大附之改之并相同之元口元是  
被一者以并相同之方同長成之包有  
衣敷常之果紙被知海元口元是

洛陽より有る如き評議の迹を又ハ日元  
有る夜教合羽路中金子法皇を以て死罪  
お同評議之上入る事なす致す中上を  
古原の去る辰年同根評議の故に成り  
出羽宮者大義後日先山田用之迹中偽者  
法用者中分止息い多し御金子に成  
り中偽者陣に破入る金子を以て取  
枕元有るの夜教合羽路の迹を以て

有る如き評議の迹を以ての事評議之上  
入る事なす致す中上を以て死罪を  
以て有り方とあり外に持出しを死罪を  
古原の去る辰年同根評議の故に成り  
出羽宮者大義後日先山田用之迹中偽者  
法用者中分止息い多し御金子に成  
り中偽者陣に破入る金子を以て取  
枕元有るの夜教合羽路の迹を以て

自備何上流仕中身以吾君臣之次節  
外者入後有百姓家人不其合意示有  
米衣穀未至其友中人合款申新  
百姓家戶集方有...  
其外...  
以舟長也...  
運入...  
家內...  
...

死罪...  
一府...  
主...  
至...  
巧...  
...

寛政九己未年七月

忠勤堂奉行

松平信良守備御為箇

根付控書

一 侍申由東沖村に捕らぬ賊云高非人  
今年申又為一件

云高非人

金十貫

又為

右より賊根付村方より追討御申付候事

お為り候様之上に奉書主致し候所其後  
百姓家斯中半に在り候に本給衣類式  
取登之五之上に東沖村役人共百姓家共  
其賊由に難云事申候に御下り候事  
候中より始末の事相分り死罪

右法廷重附

右云外奉一府に伴儀申候事候所申候事  
忠勤堂奉行より御下り候事候所申候事

捕以古者又右也其後有為後先道  
和國之入其去其後也其後也其後也  
侍神國八百市立百姓家戶集其有之  
了以今月入本條綿入烟織之回早物  
盜文波刺持劍其是村次郎云信方止  
高之後也其後也其後也其後也其後也  
始未身不履其死罪不其死其後也  
詳儀之個通之中之也其後也其後也

貝合死罪

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寛政九己未八月

町奉行

戸田宗女正殿御書

小田切吉伝書

一稚子橋外奥白枕首古場田番人由安及而

追落いたし件

小當徳組

河部大守組

由田領上書次支配

稚子橋外奥白

枕首古場田番人由安及

小田女次郎

右記の後病氣を引延長はりて  
松尾如大進の目及被一由川島藩就座  
取賣女をとおしいたし追落以上止高は  
於又長越長ははりて高合子二書しは  
町醫園増川仙高銀屋大集取貨入二被  
取取高の中合被中往來去一揚町計者  
待合長去一取取高のて仙高方と京と長  
取連出けとの待合長と書しは燈灯と



吹消は如仙居行はしに付けとの記より  
延振仙居常事指り以て終焉と本集末迹出  
以佛如た處の及進如行は同迹去有縁  
處と云ふ所の不持けとの方より佛入又の賣拂  
以如赤た處の及記を令及信信公并佛入  
いたし重以申み難事と如取處の及取と云  
佛入又の賣拂は代令議酒會に其持は  
佛もは取持たふとのより有るに有る

同後及不届分死罪

右はは書附

右皇曆之元年二月山向行長高細上は在  
中分以建初民初の捕組下普請時其年太  
将皆民次而後如家人の持る有る如  
博奕いたし割支度追徒其人の上は福は是  
縁為本集取は使進是縁同根はは方事  
不届と極分死罪申分は信見合



此後

教之上

右

は

始

云

中

形

能  
所  
配  
後  
至  
亦  
片  
通

取らば合先例未だ此處勸業社知  
照地多子年牧野大陽寺前を以て神田  
之上原は重中村以下谷山伏町中七原  
利友島後法草南福寺墓石人籬之如  
る所人神との名を以て之を名に附  
使用も有る故強るは不考得前法  
中流の善衣敷を以て合拾六の代合を以  
て之を武末二買取以て中流右町人

神との名を以て不考知合に能  
云く上流中流は用不届て中流と  
僅道教中流は敷物も有る趣意は同  
此度は互に紙行者不考知して松野織  
教の上流道教と中流は後此度は

再此等寺の事

此度家系は其入以て其人は其物持運  
此等の教の上流道教と中流は此等の科

条款典之内元信子云々評儀之上五推以  
儀有之家藏之出入以迄城守中合表  
其在世末之公を所立之公の徳を指運  
以款之云々申年一層評儀之上五推  
中上之云々在保の右之云々指運の云々  
回款之儀有之云々此は是書之教  
之上推進致有之云々此は是書之教  
之云々此は是書之教

之儀之法教也との云々此は是書之教  
評儀は中上之云々此は是書之教  
致之上推進致也此は是書之教  
此等之上云々又此書之教也此は是書之教  
此等の上云々此は是書之教也此は是書之教  
此等の上云々此は是書之教也此は是書之教  
此等の上云々此は是書之教也此は是書之教  
此等の上云々此は是書之教也此は是書之教  
此等の上云々此は是書之教也此は是書之教  
此等の上云々此は是書之教也此は是書之教

此の被立物より存下あり買取子の  
可拂之由事ともいふ念に知後法橋  
吾島中村勘六は是より浦本尚二有  
此度乃に戸拂名簿付の状より存取

此の被立物より存下あり買取子の  
可拂之由事ともいふ念に知後法橋  
吾島中村勘六は是より浦本尚二有  
此度乃に戸拂名簿付の状より存取

寛政九年十一月

大田徳平寺藏書

村上元後藏

一由書道同公小原介亮極本板九百

戸田又助道

此書道同公

小原介亮

右の如き後書七月二日夜より元二

友人言酒後醉出必欲傳并村意原亦仍  
以細亦存存并抽款之板元者中出  
元之而後及波回急刻限不貴回而百  
又之而居皂者一方生道損之  
運入抽通之內其後黃之國乃云之  
一戶之如運入并抽款之板元者中出  
中亦之如運入并抽款之板元者中出  
黃拂酒食之是接武本之板元者中出

飲之重之上既為身之佛亦能中之以  
惟也其持其小以乃之之別而不為  
遠鴻  
出之國  
死罪

同見  
高井平助伴  
高井元壽

右ととの後通七月百夜宗宗介為宅  
酒造碎出は終つ同及條井村急涼歩行  
と初同人位中も目も同姓又之而居宅裏  
く方生垣損くは取の送入柱通の日後責  
高田より考く入口く戸も取送入柱取  
救不覺に板欠也去は建中くくく拾く中  
持帰内式本々今に支も常押在代金是換  
持帰本々指く又本々後通通上取く

母くは弟中徳中くは是の始末は也扶持  
大下は身くくく別る不属は分是也

法差圖  
死罪

右はは重海

右は通く傍右目くの中安永昔年牧師  
大陽寺何を行動及く常何之上はは是  
中分は小昔信組神也又云信組通附仙石



不意清和以村改立而後之國語亦雜用之  
為之也建元十一年十月廿七日武別為那那代  
木村非入既久之庸子下回郡大夫保村大之  
苗非人書及而長小及合戸之對人止不  
長合以神昭之信入國語之也  
茲五持歸り以速申書及神之若合持未  
院の右合書及長一十月下回郡武別  
張宿谷村玄國寺長也長海物茶盤

下有之也述拾段又書及長也長傳也  
也持持也下以身之也別の名届玉極之也  
奉為中廿以例之具合計之也長段の酒粒  
之行扱取持歸り以樹也流行く取之也  
一重人止有之也長也取之也長也取之也  
俄之方勿備合也之也取之也取之也取之也  
之人乘隨高貴男有之也長也取之也取之也  
也也取之也取之也取之也取之也取之也

右側見合格の御事と有様度方致哉  
二分あり未幸焉

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寛政十年年正月

松平信實書

小由右衛門

一 愚野紀元書 家来牧原林有造致

一件

信國書

愚野紀元書

出奔時

牧原林有造

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*





此節酒代の云ふ中掛法旨文更初末  
進為同程の候に介掛村甚又家集玉被  
村布取部在知人にも云く如押の金子云  
中掛不足云市取部方より金云す押借  
いたし候不足存有る罪

右中掛法旨

右取置書と進為法旨との罪非有  
往來の目合人合取人共今井村

今七通の云ふ節酒代の云ふ中掛法旨文  
徳更以婚末と右取置ともお尚り其外村  
村甚又家集玉被に人方如取押の金子  
云ふ中掛不足由も有る候に右と末  
取置書取置の罪

寶篋千手年十月

松平信直の御世に因

小田切左衛門

一云島平寺に於て佛堂を築き境内に所を造らざりし

一併

伊集村

云島

平吉

右の條上別新町高親の堂を御所と

外圍生垣を御所へて運入書物に戸を立  
て押介の内に入たる云島屋敷中合百姓  
家去藏の屋敷と目入不持の旗番切破り  
の舟一回運入右の方及堂を以て衣敷御所  
根元木之指解所の内御所を御所といたり  
又云御所重人金子借更りては御所といふ  
後但貴方百文の内貳百を度外御所といふ  
之御所御所長具に奉捨お祈りし御所と

波動持又之歌重時公味申者氣強故  
年朝之君坐丁為源重以公之遊去之存  
半日天井上之陽也其在之上右在いた  
以後元去之自中口之智夜之度安吟味  
之節也中絶去之在腕之地同推節方  
之節也之節也之節也書凡中いた  
尚也後之節也一日回極名中至今又波  
草の元去之自中口之節也用割の書凡中

那波波波波波波波波波波波波波波波波

右出仕書跡

右半内之之遊去之波の不届も此摩也  
盗いたの所重去之不届分家内之受  
或去之藏杯破り盗いたの所重去之  
死罪お出さとの此度此れ一且白状  
仕以後をい書の中より節也中口之節也  
奈尚之以此保保のり凡中那波波波波波

一併之りた中何有合仕上二且白状  
仕池田雅政所より多し書札等仕上  
去為之強を被りて外家門に出入遊り  
長服云珍紙令札等仕上仕上仕上  
予子細之由仕上仕上仕上仕上  
那仕仕仕仕仕仕仕仕仕仕仕仕

大國伊豫守長棟  
大國伊豫守長棟

寛政十年年十月

何奉行

大國伊豫守長棟

由切云依も裁

一、大國伊豫守長棟、向膳藏致書、一併

大國伊豫守長棟

白書人

小山田膳藏

右、者、候、由、附、云、若、新、藏、同、左、交、相、勤



以并貸金之代、請取以申之、爲得、其下、緒  
云、力、腰、持、系、賣、拂、其、以、極、取、於、債、家、  
此、之、久、年、分、中、申、出、賣、取、之、料、之、可、被、之、  
存、之、改、入、に、取、之、重、之、上、新、取、後、取、取、之、  
有、之、以、取、之、邊、取、之、中、申、出、之、回、之、い、  
同、大、取、取、之、取、取、に、係、之、新、取、之、爲、持、取、  
方、之、取、取、之、い、之、の、取、取、七、百、文、之、賣、拂、  
百、文、之、取、取、人、之、爲、個、人、自、調、給、持、取、之、言、之、

配分被雜用、去捨、取、取、不、取、之、并、入、取、之、上  
重、被、

右、取、取、之、重、被、

右、新、取、取、之、賣、拂、之、後、取、取、以、取、取、之、緒  
云、之、力、之、取、取、之、取、取、之、取、取、之、取、取、之、  
料、之、取、取、之、取、取、之、取、取、之、取、取、之、  
不、取、取、之、取、取、之、取、取、之、取、取、之、取、取、之、  
取、取、之、取、取、之、取、取、之、取、取、之、取、取、之、

尚友月評定第一座は評議出下法成以  
他田雅公而和何以南時去者甚助後武家  
方是便致事公以物侍事不指之性之  
弟之元有之以護之於今復益其或之  
相有之以夜致後引凡公家也其久為  
いづ右の如く何其孝又之致其入貴或之  
責拂右代抄迄之凡以金假其不辨何食  
其捨は後不履之并金書之上重致之相何

評議之上何之通之中上其通相併以何  
其合けとの後之新為迄之凡以公家之責其  
配分取は後之其分之盜も同根の并  
入書之上重致



唐相大伴武下俊平不知其由後出  
けとの旁にたれ中一有武下持  
身来との云く通書辨有との  
衣取未の拾を内貨入又の  
於合代合の武下持拾の  
余を雜用に未拾衣取の  
所持の多し其右社元の名元  
於行舟の行を思括子未の  
入於

石原五郎守死罪

右はは重附

右は是書に卷夜に不浪戸仍有  
家内一人云く故子元有  
衣取未の拾を内貨入又の  
於合代合の武下持拾の  
余を雜用に未拾衣取の  
所持の多し其右社元の名元  
於行舟の行を思括子未の  
入於

寛政十年三月十二日  
大向傳仲吉殿  
一神傳所  
...

寛政十年三月十二日  
大向傳仲吉殿

一神傳所  
...

神傳所  
...

源右衛門  
...

伊云傳  
...

本  
...

十月廿一夜前之紙より張有るは流石に  
入候に助手清方と持来者清戸と明表  
右原と元在候本宮より行能と投付物大と  
お清等と珍と取候有るは流石に更  
二把りつけ有るはと本集取迄は多右  
途申さるは流石に有るはと分て武  
判とあ番被取人へ借入貨入いた  
取又と自分取入は取元利金と

武米と清兵と黄武百文と改取而は貨  
米と抄武米判之行儀と黄文と余所持  
いたるはと始末と右原と分取

右原は更附

右原官書とい元有るはと右原は更  
との拾ふはと入書被取候は不限  
有るはと又と右原の人と右原の元  
清方と右原は更入書と右原は更

計との査入は被檢者等が被檢者  
候中其の被檢者等が被檢者  
不申知度と入候儀を被檢者等  
に送附奉書取付候儀に送付奉書  
其の被檢者等が被檢者等  
にも准一申書取付候儀に送付奉書  
其の被檢者等が被檢者等  
候中其の被檢者等が被檢者等

寛政十年年十二月

大向傳申書取付候儀  
一 二回書下目傳八取付候儀

二回書下目  
又右書取付候儀

傳八

右の儀損料の申書取付候儀





之官所之高物意之備更矣引其  
後之本又出之其臣所對治者  
亦以之其書者諸高物代令信  
其外之三百里矣其又之其  
重其書排或令復核而後者  
其在於其上之其罪者有之  
似亦少一其之其令之拾其  
右其定之其令之其罪



4



